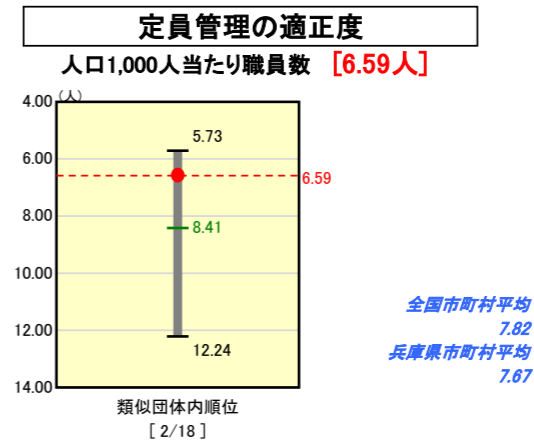
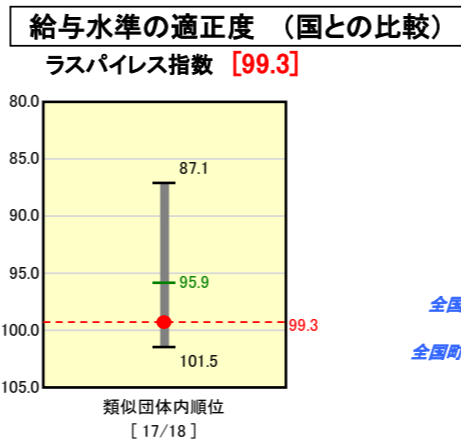
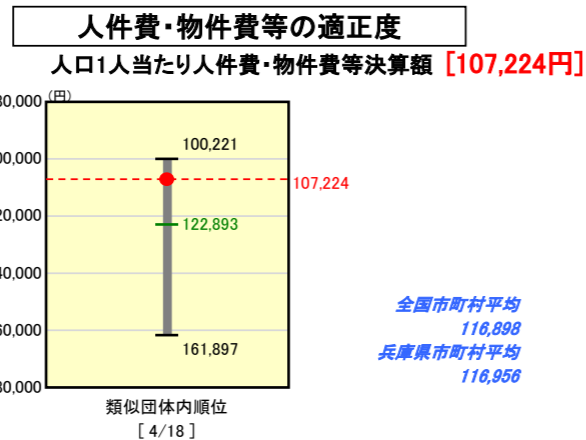
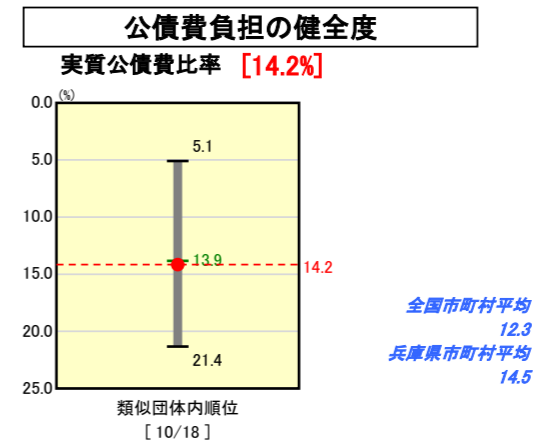
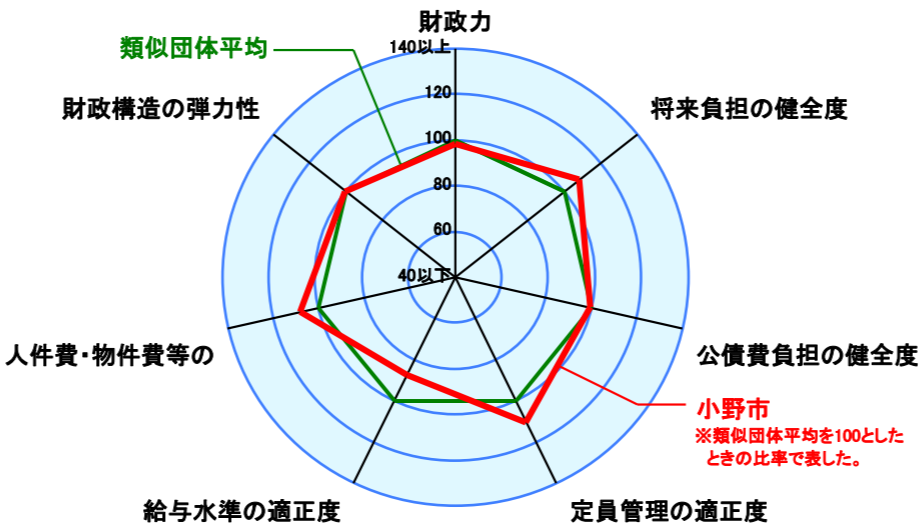
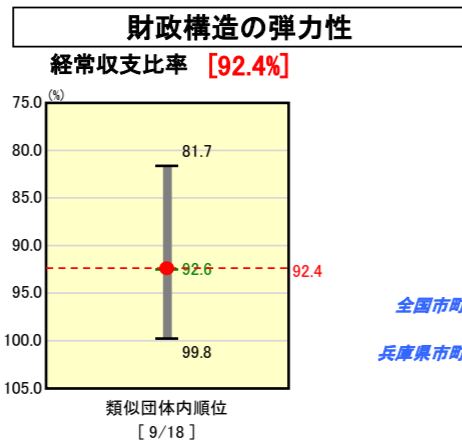
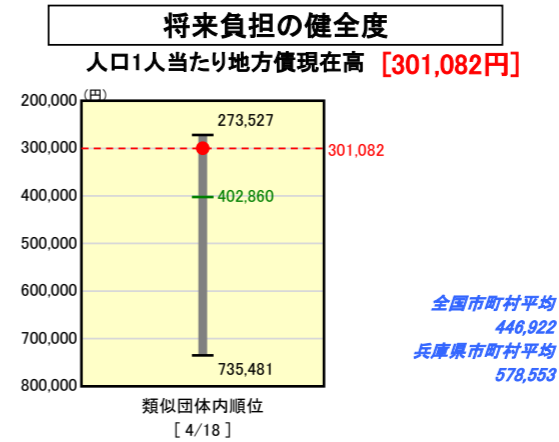
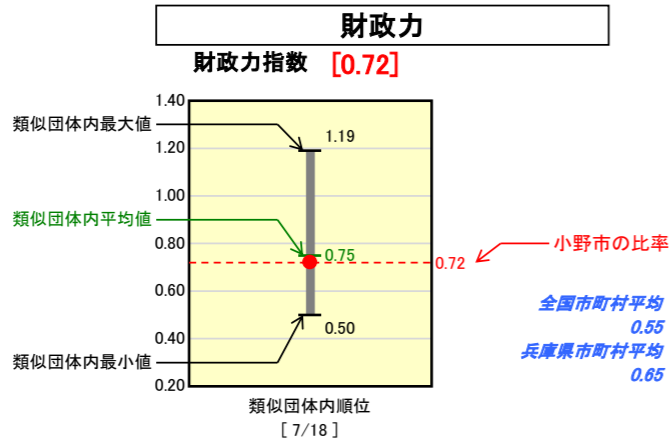


市町村財政比較分析表(平成19年度普通会計決算)

兵庫県 小野市

人口	49,766 人	(H20.3.31現在)
面積	92.92	km ²
歳入総額	17,594,374	千円
歳出総額	17,335,337	千円



※類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。
※平成20年4月1日以降の市町村合併により消滅した団体で実質公債費比率を算定していない団体については、グラフを表記せず、レーダーチャートを破線としている。
※ラスパイレス指数及び人口1,000人当たり職員数については、平成19年度地方公務員給与実態調査に基づくものである。なお、平成19年度中に市町村合併を行った団体については、当該項目に係るデータのグラフを表記せず、レーダーチャートを破線としている。

※人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

分析欄

- 財政力指数**：市税収入等の伸びにより前年度より0.02上昇したものの、類似団体の平均よりも若干低い。人口については、少子化に影響されることなく、横ばいとなっており、今後も土地区画整理事業等による人口増が見込まれるところであり、引続き、更なる財政基盤の強化を図っていく。
- 経常収支比率**：下水道事業への繰り出し基準の改正により操出金が増加し、補助費等が膨れたことにより経常収支比率が、前年より1.2%上昇した。県内平均や類似平均を下回っているものの90%を上回り、財政の硬直化が進んでいる。今後も引続き、小野市の方針管理制度(TQC)に基づき、更なる人事管理や積極的なアウトソーシング等の行政改革による経常経費の削減を図り、経常収支比率の抑制に努める。
- 人口1人当たりの人件費・物件費等決算額**：県内で人口1000人当たりの職員数が最も少ない人員で業務を行っていることを反映して、人件費、物件費の適正度はきわめて高い。また、全国平均を大きく下回り、類似団体の最小値に近い値となっている。
- 人口1人当たりの地方債(借金)残高**：人口1人当たりの借金残高は県内都市では、少ないほうから2番

- 目、全国の類似の18団体のうちでも少ない方から4番目に位置しており、近年の地方債残高の削減が顕著に現れた結果となっている。
- 実質公債費比率**：一般会計の地方債残高は少ないものの、ほぼ市内全域で完了した下水道整備や高度医療等の確保に伴う病院事業の積極投資などにかかる地方債償還が実質公債費比率を押し上げているが、類似団体の平均とほぼ近い14.2%である。引き続き計画的な事業執行に取り組み、H20年度には、14.2%、H21年度には14.1%と計画しており、15.0%以内を目標に健全な財政運営を図っていく。
- 人口1,000人当たり職員数**：新規採用の抑制、民間委託の導入等により、定数管理の適正化、業務効率の向上に努めた結果、全国の類似団体の18団体の内、2番目に少ない数字であり、H19.4.1の市民1,000人あたり、6.2人(病院・消防を除く。)と県内29市中、最も少ない職員数で業務を行っている。また、H20年度では、同5.95人と更に少ない職員の数となる見込であり、引続き、より効率的な定員管理を行っていく。
- ラスパイレス指数**：H19.4.1現在で、99.3%と、目安となる100%を下回っている。今後も引続き、適正な給与水準の確保に努める。